

10/18(土)、19(日)に愛媛県松山市にて四国サッカー協会審判委員会主催の「ユース審判員育成担当者研修会 伝達講習会」が開催されました。

今回の講習会は、今夏に行われた全日本少年サッカー大会に参加したユース審判員育成担当者が、四国の審判インストラクターを対象に、今後のユース審判員育成の方針や指導法を伝達することを目的に開催されました。

2日間で4県から14名のユース審判員、11名の審判インストラクターが参加し香川県からも、3名の高校生審判(1年生、2年生、3年生各1名)が参加しました。

講習会は4種の中予ジュニアリーグの試合を通して行いました。試合を担当したユース審判員への試合分析指導を地域インストラクターが行い、また、廣嶋禎数 JFA トップレフェリーインストラクターがプラクティカルトレーニングや講義を行いました。

夜は、地域インストラクター同士でユース審判員の活動環境や指導方針についてディスカッションを行いました。

講習会には JFA 審判委員会より廣嶋インストラクターの他、高橋武良委員、吉野内浩志普及部会員が参加し、ユース審判員への指導と共に、地域の審判インストラクターとの情報交換を行いました。

集合時には緊張からか表情の硬かったユース審判員たちも研修を通し、徐々に積極的に参加者たちとコミュニケーションするようになり、また地域のインストラクターたちも他県の審判育成について積極的に意見交換するなど和やかな雰囲気です充実した2日間となりました。

参加者コメント

廣嶋禎数 JFA トップレフェリーインストラクター

全日本少年サッカー大会で学んだことが、その地域のインストラクターに伝達されるだけでも有意義な機会でした。ユース審判員のみならず若手審判員は答えを求めたがる傾向にありますが、彼らには物事の捉え方として論理的に考える能力を身につけて欲しいと思っています。またインストラクターのみなさんには、「教えすぎず考えさせる」指導をして欲しいと考えています。

高橋武良 JFA 審判委員会普及部会長

JFA も日々ユース審判員の分析や指導方法を検討していますが、それはあくまで JFA が接しているユース審判員を対象にした分析です。地域・都道府県のインストラクターのみなさんは JFA の資料も参考にしつつ、普段接している審判員たちと向き合って必要な分析を行っていただきたいと思います。

中村翔太 ユース審判員(香川・高松北高校3年)

今回の大会は、4種年代ということもあり、怪我に対する注意や配慮が重要であることを再確認出来ました。これは普段主に審判をしている2種やほかのカテゴリーにおいても当てはまると思います。

また、元国際副審の廣嶋禎数インストラクターのトレーニングと講習は、将来国際審判を目指す僕にとって刺激的なものでした。

蓮井優弥・ユース審判員(香川・志度高校2年)

今日初めてジュニアの審判をして一人審判の難しさがよくわかりました。廣嶋さんのプラクティカルトレーニングでは、競技者を見るための動き、角度の難しさ、ボールの無い所のファウル等、いろいろ勉強になりました。最後に試合のVTR等見ながら、ファウルの判定の根拠を考え、きちんとキーワードで他人に伝えることができるようにすることが大切であることを学びました。この経験を活かし、しっかり実践していきたいと思います。

石川日向・ユース審判員(香川・琴平高校1年)

1試合目は、一人審判の時は対角線審判法ばかりをせずいろいろな方向に素早く動くように言われました。2試合目には、そのことは改善できたと思います。ただ、ペナルティーエリア内でのPKになる反則をわかっていてとれなかったことが残念です。しっかり笛を吹く勇氣を持ちたいです。最後の講義では、判定の精度を上げるためのことを教えて頂けて有り難かったです。

大平昌司 インストラクター(香川県審判委員長)

ユース審判員にとっては、1人制審判を経験することで、今日はたくさん勉強になったと思います。私自身も1人制審判を通し、大変勉強になりました。また、廣嶋インストラクターのプラクティカルも今後指導していく上でとても参考になりました。

県内の高校生には積極的に3級を受験してもらえるようにしていきたいと思います。



